

藪内紹智の家は西洞院北小路の北にあり。鼻祖劍仲紹智は千利休の高弟なり。ある時師に向つて曰、秀吉公の寵余人に超たり、遠き慮なき時は近き害あらんと諫しかば、利休甚不興にして紹智を退ければ、大徳寺の三玄院に寓居す。利休の滅後、洛北紫竹に住し、専茶道を行ふ。其後鷹司通〔今の下長者町なり〕新町の西にうつり、それより本願寺御門主良如上人の招によつて今の地に止住す、故に茶道の下流と称して利休嫡伝の正流なり。古田織部の数寄屋あり。〔大坂動乱の時此家に譲り出陣す、これを織部の京座敷と号す〕